



都城東から世界へ！ *To the world from Miyakonojo Higashi*

～日本の未来をささえ、グローバルな舞台で活躍できる『人材』を育成します～

本校が推進している『グローバル教育』を、海外での語学研修を経験した生徒や活躍中の *English Teacher* の感想や気持ちを通して伝えていくページです。

語学研修 クローズアップ



『子供たちの目の輝き』

調理科 1 年生 寺田 耐くん(小林中出身)

3 ヶ月間のフィリピン語学研修は、私の将来に対する視野を広げてくれた貴重な体験でした。父は空手の師範であり、道場で多くの門下生の指導をしています。私も幼い頃から空手に親しんできました。今では、全国大会などに出場できる機会も増え、空手を通して様々な経験や色々な人たちとの出会いがありました。そこで今回、フィリピン語学研修に参加するにあたり、2 つの目標を決めました。1 は英語を話せるようになること、2 は現地の子供たちに空手を教える事です。1 つ目の目標は、私達のためにの授業が用意されており、先生のサポートや、食堂、セキュリティの方々に、物怖じせずに話しかける事でコミュニケーションが取れていく事が楽しくなってきました。そして自ら現地の友人を作るために積極的になりました。2 つ目の目標は、ジム探しから始まりました。近くのキックボクシングのジムで空手を教える事になり、この経験が今回の中で一番の宝物になりました。フィリピンは日本に比べ後進国であり、貧しい子供たちをよく見かけます。路上で生活している子供もいます。そのような状況でも、空手を教わる時の子供たちの目は真っ直ぐであり、輝きに満ち溢れているその印象は今でも鮮明に覚えています。満身に食事を採れていない子供たちでも、何かを学ぼうと、見よう見まねで必死に練習する姿勢は、日本人が忘れていた姿だと感じました。ハングリー精神という言葉聞いたことがありますが、この国は貧しさや不自由さをバネに、楽しんでいるようでもあり、自身で未来を切り開いているような感覚を受けました。その子供たちに比べると、私たちは、不自由な環境で育っていると思います。しかし、私も含め、つい環境に対する不満を口に出したり、学ぶ環境は用意されているのに、身勝手な判断で取り組まなかったりしていると気づきました。この経験を少しでも、私が教える子供たちに伝えることが出来ればと思います。また、自身もこの経験を生かせるようにしたいと思います。



3 Months After

If they could not learn English the way teachers usually teach, then maybe we should teach them in an unusual way. If they find English foreign, then maybe we need to make the English class feel like home. As teachers, it is our responsibility to provide every learner a constructive environment where they can enjoy a language that they do not consider their own. Teaching at Higashi has been like taking care of a garden. No rewards yet after a day of work,

no ripe fruits ready for plucking. Progress has been gradual and growth minimal. Improvement has been invisible by every afternoon but when we think about it after three months, we're certain we've made a difference. We're thankful for the opportunity to touch lives and experience Japan in this way too. After all, our goal is no to be indispensable but for students to develop an interest in the language. The way hasn't been carved pavement,

it was actually a rough road. There were rocks along the way but we won't allow them to be stumbling blocks but rather make them stepping stones.



世界で活躍する若者を育てます *To the world from Miyakonojo Higashi*

デュアル教育

職業教育による本物の人材育成

グローバル教育

グローバル化に対応出来る人材育成

儒教道徳教育

日本人としての基本的人格の育成



学校法人豊栄学園 都城東高等学校 〒889-1996 北諸県郡三股町大字樺山 1996 番地
TEL: 0986-52-1010 FAX: 0986-52-1011 E-mail: mh-hs-so@btvm.ne.jp
都城東高等学校広報誌 第 7 号 発行日: 2015 年 1 月 25 日 発行: 学校法人豊栄学園都城東高等学校 編集: 学園本部

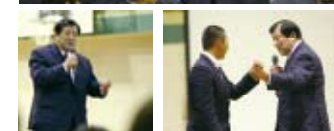
学校の最新情報はウェブサイト (<http://miyako-higashi.ac.jp/>) でチェックできます。



箱根から世界へ

早稲田大学
駅伝監督

渡辺康幸監督 特別講演



またゲストとして衆議院議員の亀岡偉民先生が登場しました。作新学園高等学校野球部の捕手として元巨人軍の江川卓投手とともに甲子園に出場し活躍された亀岡氏は、生徒達に対し、みんな大きな可能性を秘めており、その可能性を信じて行動をする事の大切さをお話しされました。

1 月 15 日に、早稲田大学競走部の渡辺康幸駅伝監督を招いた講演会が開催されました。同大学時代にエースとして箱根駅伝などで活躍し、日本代表などで数々の大会に出場した経験を持つ渡辺氏は、2004 年に監督に就任し、2011 年の箱根駅伝では 18 年振りに母校を総合優勝に導きました。「箱根から世界へ」をテーマにした講演では、限られた時間で効率的なトレーニングを行う事の重要性や、ケガをしない練習方法など、世界への挑戦を意識した実践的な取り組みについてお話がありました。明確な目標を持ち、その目標を実現するために具体的な目的のもと、自ら考え努力を積み重ねることが成長のステップであり、成功に欠くことのできない過程であるという事に、生徒達は真剣に耳を傾け、刺激を受けていた様子でした。



保護者や地域の皆様も多数参加いただきました。



生徒会長の山下幸太君が代表として御礼の挨拶を行いました。



テレビ局の取材に緊張を隠さない様子です。



YASUYUKI WATANABE

千葉県出身 1973 年生まれ

経歴

市立船橋高校
早稲田大学人間科学部卒業
エスビー食品
早稲田大学競技スポーツセンター客員准教授
早稲田大学競走部駅伝監督

戦歴

全国高等学校総合体育大会・ユニバーシアード、国民体育大会など、各大会で優勝 23 回

駅伝成績

箱根駅伝ほか各大会において区間賞 11 回 総合優勝 7 回

監督としての成績

箱根駅伝において 2011 年に総合優勝
他駅伝大会においても上位に導く。

“For the students who will accomplish with faithfulness”

3年間の集大成！もてる力を尽くして臨んだ

調理科卒業作品展開催



12月20日(日)に本校の体育館にて、調理科3年生(68名)の卒業作品展が行われました。10月に入ってから、和食・洋食・中華・菓子コースに分かれ、メニューを考案し試作を繰り返しながら毎日遅くまで準備にあたりました。作品展の当日も早朝より準備に入り、培った技能の集大成としてそれぞれの生徒がそれぞれの思いを込めて創作した料理を披露しました。料理の香り漂う会場には、保護者をはじめ中学校でお世話になった先生方がたくさん来場し、生徒たちの成長に関心していました。これまでの感謝の気持ちを調理を通して表現し、これからの決意を伝える素晴らしい機会となりました。

作品 PickUp

生徒達の3年間の集大成を紹介



「練切」
新留 冴香さん(妻ヶ丘中出身)



「色とりどりの花畑」
南崎 美樹さん(三股中出身)



「刺身盛り合わせ」
長岡 弘樹さん(高城中出身)



「シーフード&ミートグラタン」
盛田 聖也さん(中郷中出身)



「鯛の柚焼き 鯖の西京焼き」
川越 一文さん(三股中出身)



「ブラック&ホワイトチョコレートケーキ」
南脇 功太さん(財部中出身)

“For the students who will accomplish with faithfulness”

PROFESSOR TAKAYO INOUE SPECIAL LECTURE



明治学院大学 元副学長
現名誉教授

井上孝代 先生
特別講師
職員研修



生徒を取り巻く環境の構造や変化の説明など、専門的な内容を取り入れながら研修が行われました。

1月14日に、明治学院大学の元副学長であり同大学の名誉教授である井上孝代先生を特別講師に迎え、職員研修を行いました。多様化する教育現場において、生徒達の気持ちや精神的な環境への支援をどうすべきかと言う「学校に求められる心理支援力」をテーマでした。研修会の中で井上先生は、生徒達の声に対し心を理解する為に「傾聴」が大事で、コミュニティ(生徒を取り巻く環境)の変化に柔軟に対応しながら、包括的なサポートを目的とした心理支援力ができる教育現場を作ることが重要とのお話を頂きました。職員一同、生徒達の素晴らしい未来のために更なる努力を重ね、より良い教育環境の構築のために研鑽を積んでまいります。



「聞」と「聴」の違いを体験し、「傾聴」の重要性を認識しました。



ここ数年の社会環境の変化を理解し、それ 心理学の観点から、自己分析を行ない、個に
に応じた対応ができるよう理解を深めました。 に対応したの教育を思案しています。



TAKAYO INOUE

明治学院大学名誉教授・博士(教育心理学)・臨床心理士
MCC(マクロカウンセリング&コンサルティングセンター)代表

経歴

九州大学大学院心理学専攻博士課程修了病院・効率期間・企業の心理専門職、教育相談・企業カウンセラー、日本語教育センターを経て明治学院大学名誉教授と至る。

1991年

東京外国語大学留学生日本語教育センター
助教授・准教授

1998年

明治学院大学 文学部 心理学科 教授

【専門】臨床心理学・カウンセリング心理学・
コミュニティ心理学・異文化間心理学

2004年

明治学院大学 心理学部 心理学科 教授
2012年
明治学院大学 副学長

2013年

明治学院大学 心理学部 名誉教授

“For the students who will accomplish with faithfulness”